

## BLASTAM（ブラスタム）について

いもち病の発生には気象が大きく影響します。気温 14～30℃（特に 20～25℃）で、弱い雨や露などが続いてイネの葉が長時間濡れるような条件の時に発生しやすくなります。

ブラスタムは、アメダスデータ 4 要素（気温、降水量、風速、日照）から感染に必要な葉面の濡れ時間を推定し、その日がいもち病の感染に好適であったか否かを判定するプログラムです。

最も感染に好適な条件になった日は●で表示し、それに近い条件（準好適条件）の日は 1～4 の数字で表示します。なお、準好適条件の 1～4 については、条件を区分した整理番号であり、感染しやすい条件の順序ではありません。

ブラスタムで感染好適条件が確認されると 7～10 日後に葉いもちの初発生があると考えられます。ブラスタムで初発時期の目安を立て、水田をよく観察し、葉いもちの発生を認めた場合は、1 週間以内に薬剤散布を行う事が重要です。なお、粒剤を施用する場合は、薬剤の効果が現れるまで 1 週間程度の時間を要するため、ブラスタムで感染好適条件が出現したら速やかに薬剤散布を行いましょう。

### 【発生指標】

●	好適条件	湿潤時間中の平均気温が 15℃～25℃であり、湿潤時間が湿潤時間中の平均気温ごとに必要な時間を満たし、当日を含めてその日以前 5 日間の日平均気温の平均値が 20℃～25℃の範囲にある。
1	準好適条件	湿潤時間は 10 時間以上であるが、前 5 日間の平均気温が 20℃未満。
2	準好適条件	湿潤時間は 10 時間以上であるが、前 5 日間の平均気温が 25℃以上。
3	準好適条件	湿潤時間は 10 時間以上であるが、湿潤時間中の平均気温が 15℃～25℃の範囲外。
4	準好適条件	湿潤時間が、湿潤時間中の平均気温ごとに必要な時間数より短い。
—	好適条件なし	
?	判定不能	